

3. 飛鳥宮跡の「活用」とは : どう伝えるか その2

飛鳥宮跡の価値を「どう」伝えるか

- 飛鳥宮跡の本質的価値を伝える最も効果的な手法はどのようなものか
- どのようなハード的手法が必要か、どのようなソフト的手法を重ねるか

【参考】 第1回委員会の集約(委員意見)

<対象者に関わるもの>

- 誰にでも理解できる内容とする
- 深い知識がなくても理解でき、興味が持てる内容とする
- 家族で来られる、来たくなる場所とする
- 住民にも再発見してもらえる内容とする

<ハード的な手法に関わるもの>

■ 考え方

- 歴史と空間が一体となるような整備、歴史を感じる空間づくり
- 建築物は一目瞭然で、言葉や映像、図面よりわかりやすい
- 史料に基づく正しい裏付けが必要
- 遺跡を傷めない活用

■ 手法

- 木造のライフサイクルを考えた建築物(掘立柱建築)
- 建材、樹種にこだわらない建築物(斎宮の例)
- 季節的な人の動きに合わせられる建築物
- 従来手法にこだわらない柔軟な考え方に基づく建築物の再現
- 仮設物とすることで、流動性(造ったり、分解したり)を担保

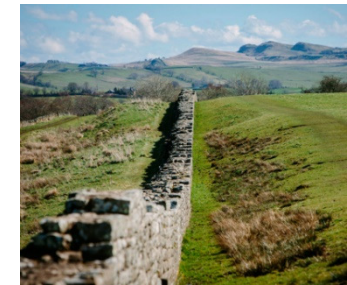
<ソフト的な手法に関わるもの>

■ 内容

- 歴史を体感するためのコンテンツとそれを伝える方法を考える
- モノ以外の、制度、文化等を伝える展示
- 宮で行われていた行事、催事等を再現する

■ 手法

- 歴史をわかりやすく展示するため、一般化する手法を検討(企画段階評価)
- コンテンツを修正しやすいVRの活用
- 活用を図る中で、ハード・ソフトの内容が検証され、新たな研究成果につながる(イメージを固定化しない継続的研究)
- (来訪者に伝えたい)強い思いを学術的に検証し、価値を付加する



◆ハドリアヌスの長城:Hadrian's Wall Country HPより



◆大明宮丹鳳門
:大明宮国家遺跡公園HPより



◆百濟文化園
:韓国観光公社HPより

3. 飛鳥宮跡の「活用」とは : どう伝えるか その3

【参考】 飛鳥関連の各種報告書等の記述

- ◆「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」(H22.3 奈良県)
 - ・各施設における総括的・俯瞰的な展示
 - ・遺跡や寺院等における歴史解説等による明日香の「歴史」の多面的な展示
 - ・拠点施設及び現地(遺跡や寺院等)がネットワーク(相互連携)された歴史展示システム

- ◆「明日香村における生活環境及び産業基盤の整備に関する計画」(H22.7奈良県)
 - ・コンピュータグラフィックスの積極的な活用を含めた解説の充実

- ◆「飛鳥宮跡保存活用構想」(H26.3 明日香村)
 - ・中核遺跡としての学習、情報提供・発信、便益、交流等の機能の充実・整備
 - ・地下遺構の保存を大前提として地上部において遺跡のもつ価値をわかりやすく展示
 - ・現地において、遺跡の範囲、規模、内容等が理解できるよう、遺構の状況・内容に応じた適切な整備
 - ・遺構の復元的整備やバーチャル映像の活用等の歴史展示によって価値を顕在化
 - ・段階的な整備の中で柔軟に対応
 - ・整備の前段として仮設物等による遺跡の範囲、形態の明示
 - ・現地でスケール感、規模等を体感できる多様な歴史展示
 - ・調査・研究成果を反映した遺跡のわかりやすい解説
 - ・宮都を構成する遺跡群の情報発信・提供による宮都の総合的理解と遺跡群等のネットワーク化の推進
 - ・多様な主体の参加による保存管理、活用
 - ・イベントを通じた遺跡の顕在化や歴史の体験など多様な交流
 - ・交流拠点に必要なサービス・管理機能の整備・充実

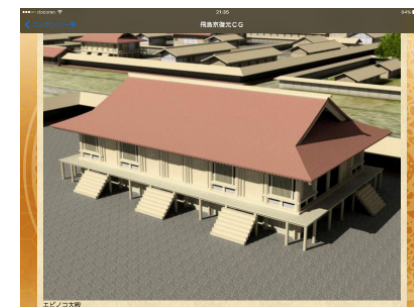
- ◆「史跡伝飛鳥板蓋宮跡 地区別保存管理計画」(H26.3 明日香村)
 - ・内郭全体を対象とした遺構の復元整備等を通じた古代の歴史・風景の可視化
 - ・来訪者が周遊観光を行うための学習、情報提供の場としての機能充実
 - ・バーチャル体験やガイドツアー、発掘体験など各種イベントを通じた村民・地域の活動団体等との交流の場として、多様な活用に資する機能の充実



◆復元建物の事例:平城宮跡



◆展示の事例(模型):斎宮跡



◆CGによる復元:飛鳥京復元CG